

白隠禪師坐禪和

衆生本来仏なり 水と氷のごとくにて

水を離れて氷なく 衆生の外に仏なし

衆生近きを不知して 遠く求むるはかなさよ

譬ば水の中に居て 渴を叫ぶがごとくなり

長者の家の子となりて 貧里に迷うに異ならず

六趣輪廻の因縁は 己が愚痴の闇路なり

闇路にやみぢを踏そへて いつか生死をはなるべき

夫れ摩訶衍の禪定は 称歎するに余りあり

布施や持戒の諸波羅蜜 念仏懺悔修行等

其品多き諸善行 皆この中に帰するなり

一座の功をなす人も 積し無量の罪ほろぶ

悪趣いづくにありぬべき 浄土即ち遠からず

辱くも此の法を 一たび耳にふるゝ時

さんたん随喜する人は 福を得る事限りなし

いはんや自ら回向して 直に自性を証すれば

自性即ち無性にて すでに戯論を離れたり

因果一如の門ひらけ 無二無三の道直し

無相の相を相として 行くも帰るも余所ならず

無念の念を念として 謡うも舞ふも法の声

三昧無碍の空ひろく 四智円明の月さえん

此時何をか求むべき 寂滅現前するゆゑに

当所即ち蓮華国 此身即ち仏なり